

シラバス

2021 年度

ファインアート科版画専攻2年

本物にふれる 本当の力をつける



学校法人高澤学園 美術造形専門学校

創形美術学校

ファインアート科/ビジュアルデザイン科/研究科

履修ガイド

1 . シラバス・出講 表

- (1) 各授業のシラバス・出講表として授業内容の他、学習目的、予習、準備物、注意事項とともに評価方法および教員・講師の出講日も記載。授業の1週間前にはアトリエに出講表を掲示。また学校ホームページでも確認することができる。
- (2) 指導日以外は授業が休みということではない。指導日以外の日も各自で制作を進めること。授業期間で制作を行うことで時間数に基づき単位がそれぞれ設定されている。スケジュールを確認し、作品提出日をしっかり守ること。
- (3) シラバス、出講表、年間行事は学校ホームページで閲覧できる。
*年間行事の変更があった場合には、その都度更新される。

2 . 単 位

単位認定

- (1) 実技の場合、課題の採点により合格と認定のあった学生には、所定の単位を与える。学科の場合、試験、課題(レポート含む)等の採点により合格と認定のあった学生には、所定の単位を与える。
- (2) 単位計算の基準=各授業科目(実技、学科共)に対する単位は週90分半期17週相当(25.5時間)の授業をもって1単位とする。

進級の単位数

本校の学生が進級するには、1年間の修得単位が32単位以上なければならない。

卒業・修了の単位数

本課程の学生が卒業するには3年以上在学し、かつ所定の96単位以上修得しなければならない。

研究生は1年以上在学し、かつ所定の32単位以上修得しなければならない。

3 . 履 修

- (1) 授業について単位を修得するためには2/3以上の出席が必要となる。止むを得ず授業を欠席する場合、必ず事前に学校へ連絡すること。
- (2) 原則、指導日の授業開始時に出欠確認を行う。遅刻・早退は記録し、欠席扱いとなる場合がある。
- (3) 交通機関の遅れに関しては必ず遅延証明書を授業担当教員へ提出すること。
- (4) 学生の履修は在籍する科の指示に従い、受講する科目は原則として全て履修する。
- (5) 授業途中からの受講は原則として認めない。
- (6) 受講した科目は、原則として変更することはできない。
- (7) 選択を希望する科目で受講人数が多い場合は、人数制限を行う事がある。

4. 採点

- (1) 受講した科目は課題(レポート含む)を提出しなければならない。
- (2) 必要に応じて授業内で課題(レポート含む)提出を複数回、行うことがある。
- (3) 科目の採点は、授業終了時に行われる。
- (4) 採点の方法は課題(レポート含む)の提出を含む総合的な評価で採点する。 ※評価方法はシラバスに掲載 (5) 受講した科目の出席日数が3分の2以上に満たないものは、原則として採点を受けることができない。

5. 追採点

病気その他やむを得ない事由により課題(レポート含む)を提出することができなかった者に対し、事前にその旨連絡のあった場合に限り、願い出により実施することができる。ただし課題(レポート含む)内容は授業内の課題(レポート含む)と異なる場合がある。

6. 採点基準

- (1) 採点は、60～100を合格とし、それ以下を不可とする。
- (2) 配点区分は次による。

採点	評価	
100～95	AA	合格
94～80	A	
79～70	B	
69～60	C	
59～0	D	不可
保留	-	仮処置

- (3) 採点保留(仮処置)による扱い

※学科において採点の結果、点数が59点以下の場合、不可となり原則として次年度以降において再履修となる。

※授業を担当する講師による採点が保留となった場合は、追課題(レポート含む)が課せられる。追課題の採点は専任の判断に委ねられ、成績会議によって認定される。

※修得単位数が1年次、2年次それぞれで15単位以下、または1・2年次を通じて合計32単位以下は留年となる。16単位以上で所定の32単位に足りない場合は仮進級という扱いになる。

7. 学科再履修

採点の結果、不可となった者は次年度以降において原則としてその学科目を再履修しなければならない。ただし、在籍学年の履修を優先とするため、履修科目の変更、または再履修年度の変更についての決定は学校の指示に従うこととする。

8. 仮進級／卒業・修了資格判定および卒業・修了判定

- (1) 本課程は前期、後期授業において学科・実技の履修状況の確認を学期末に学生・保護者に郵送する。
単位不足のある学生は学校の指示に従い、不足分の単位修得を行わなければならない。
- (2) 卒業・修了年次においては11月頃に卒業資格判定を行う。その際に出席など総合的に考慮した結果、卒業・修了資格無しと判定された者は卒業・修了制作を着手することができず、卒業および修了不可となる。
- (3) 卒業・修了判断保留の学生については卒業・修了制作作品提出後、卒業・修了判定を行い、単位の修得状況の他、卒業・修了制作規定違反など総合的に考慮した結果、卒業・修了不可となり、留年もしくは卒業・修了延期となる場合がある。
- (4) 学費において未納がある場合、卒業・修了判定において卒業・修了不可もしくは除籍となることがある。

9. 専攻を越えた授業

専攻を跨いで受講することが可能。ただし専任教員の許可が必要。

- (1) 授業開始の2週間前までに専任教員に「受講届」を提出、面談、了承を得てから受講すること。
- (2) 授業によっては、そこで使用する道具、機材やアプリケーションなどの関係で受講できないことがある。
- (3) 原則、自身の専攻を疎かにしない範囲での受講となる。
- (4) 「受講届」は学校ホームページよりダウンロードできる。

10. リモート（遠隔）授業

本校では対面授業の他にリモート（遠隔）授業を行う。

リモート授業はスマートフォンでの受講も可能であるが、可能であればPCやタブレットでの受講を推奨する。また、十分な環境が整っていない学生のために学校内に受講教室が用意されている。また、ネット環境が不安定で映像や音声がかかるなどの恐れがある場合も学校内の受講教室での受講を推奨する。

リモート授業は以下の2タイプの授業形態である。

- (1) 「リアルタイム授業」はZoomを使用してリアルタイムに行う授業である。
- (2) 「オンデマンド授業」は創形特設ページ（非公開）にアクセスし、録画された動画を視聴

し、受講する授業である。

動画視聴は創形生のための非公開となる。パスワードは学外に漏れないように取り扱いには充分注意すること。

※授業の形態や授業の進め方に関しては授業担当教員から説明される。

リアルタイム授業の進め方

- (1) リアルタイム授業はあらかじめ Zoom をインストールして授業を行う。スマートフォンでも受講可能。
- (2) Zoom の表示名は必ず学籍簿登録の氏名とすること。学生登録名になっていない場合、欠席扱い、あるいは退出させることがある。
- (3) Zoom アカウントの ID とパスワードは事前に各授業ごとにメールで通達する。
- (4) 配布する授業資料がある場合は Zoom アカウントの ID などと共に連絡し、本校ホームページ、あるいは Google Classroom へ PDF でアップするか、登校時に配布する。受講生は事前に目を通し、場合によってはプリントアウトしておくこと。

資料を閲覧できるのは創形生のための非公開となる。取り扱いには充分に注意すること。

- (5) 授業は原則、通常の授業時間で行う。授業開始 5 分前までに準備し、接続すること。
- (6) できるだけ静かな場所で受講すること。また背景に映り込むものに不都合がないか確認を行うこと。

ハッキングや情報漏洩のリスク軽減のため、フリーWi-fi の使用は推奨されない。

- (7) ウェブカメラ付きのパソコンやスマートフォン等を使用し、カメラは必ず ON にし、マイクはミュートにして受講すること。質問など発言する際にマイクのミュートを解除して使用すること。発言する際には必ず教員の許可を得ること。
- (8) 教員への質問はチャット機能を使用するか、教員が許可した場合にマイクのミュートを解除して行うこと。

教員の音声途切れた場合なども同様に、チャット機能を使用するか、マイクのミュートを解除して質問または再度、話し直してもらうようお願いすること。

- (9) 授業時間内での Zoom での対応は教員の指示に従うこと。
一時的に Zoom から退出する場合は、担当教員に必ず許可を得ること。
- (10) 自宅のネット、パソコン環境が不十分な学生は本校アトリエにて受講すること。
また、リアルタイム授業終了後に次の授業までの登校時間が確保できない学生も同様に学校の指定されたアトリエにて受講すること。

※午前中に行う 3 時間の実技授業は 9:00 授業開始 12:00 終了とする。午後実施する実技授業は 13:30 授業開始 16:30 終了とする。これは午後の対面授業の登校時間を確保するためである。午前中の実技授業において、登校時間がかかり午後の授業に間に合わない場合は、

教員に許可を願い出て早退することができる。ただしその場合は早退の時間に相応の宿題が出される。

リアルタイム授業の出欠・採点

- (1) 担当教員が Zoom で確認して出欠を取る。場合によっては Zoom の録画機能を使用することもある。
遅刻した場合は、チャットあるいは音声にて必ず担当教員へ申告すること。
また途中で退席は早退扱いとなることがあるので注意すること。一時的に Zoom から退出する場合は、担当教員に必ず許可を得ること。
- (2) 作品、レポートの提出は授業担当教員の指示に従って提出すること。採点は対面授業と同様の方法にて行われる。
- (3) データでの提出は担当教員の指示に従い、Google ドライブ、DropBox などで提出する事もある。
- (4) 作品データを添付する場合は 10MB 以内にする事。
10MB 以上のデータサイズの場合はオンラインストレージサービスなどを使用すること。以下参照。
オンラインストレージサービス <ギガファイル便>
<https://gigafile.nu/>
※1 ファイル=200GB まで可能。使用方法が分からない場合はメールにて学校へ問い合わせること。

オンデマンド授業の進め方

- (1) オンデマンド授業は、Gmail アカウントを使用する。
- (2) 創形特設ページ（非公開）にアクセスし、録画された動画を視聴して行う。スマートフォンでの受講も可能。
- (3) 創形特設ページのアカウントの URL や ID、パスワードなどを事前に通達する。
- (4) 授業動画は、各自でアクセスして視聴すること。
授業では 1 回の授業に対してレポートか作品制作などの提出物がある。提出日に注意し、遅滞なく提出すること。それらの提出が無い場合は受講したことにならないので注意すること。
- (5) 授業内で作品に対する講評やコメントに関してもオンラインで行うことがある。
- (6) 配布する授業資料がある場合は、創形特設ページのアカウント ID などと共に連絡し、本校ホームページ、あるいは Google Classroom へ PDF でアップするか、登校時に配布する。
受講生は事前に目を通し、場合によってはプリントアウトしておくこと。

動画視聴、および資料を閲覧できるのは創形生のための非公開となる。パスワードは学外に漏れないようにまた資料の取り扱いには充分注意すること。

- (7) 自宅のネット、パソコン環境が不十分な学生は本校アトリエにて受講すること。
オンデマンド授業の出欠・採点
- (1) 授業の形態や授業の進め方に関しては授業担当教員から説明される。
- (2) 授業の出欠は作品、レポートなどの提出物が期限内に提出されたことの有無で担当教員が取る。
期限内に必ず提出すること。
- (3) 作品、レポートの提出は授業担当教員の指示に従って提出すること。採点は対面授業と同様の方法にて行われる。
- (4) データでの提出は担当教員の指示に従い、Google ドライブ、DropBoxなどで提出する事もある。
- (5) 作品データをメールに添付する場合は10MB以内にすること。
10MB以上のデータサイズの場合はオンラインストレージサービスなどを使用すること。(上記参照)

リモート授業における禁止事項

- (1) ビデオ通話、音声通話の、録画・録音・撮影は禁止。また転記することも禁止。
- (2) 許可なく誰かを同席させるのは禁止。もしも同席を希望される場合は、事前に教員の許可が必要。

11. 授業単位サポート制度

「授業単位サポート制度」とは単位修得をサポートするための制度。いずれも専攻担当専任教員と面談を通じて認定される。

代替授業、学外活動を通じて認定

- (1) 所属専攻、該当学年の授業以外の授業を受講することによる単位修得（単位数：受講授業単位に準ずる）
※所属専攻の授業と重複した場合は受け入れ授業の担当教員の許諾により、途中からの受講、中抜けも認め、その場合のみ出席扱いとする。
- (2) インターンシップに参加、レポートを提出することによる単位修得（単位数：1単位）
※2年次の「インターンシップ」の授業と同様のインターンシップを、授業以外の期日に行った場合に認める。「インターンシップ」の授業同様に書類、レポート提出が必須。採点方法は受入会社の評価に従い採点。
- (3) ボランティア活動などによる単位修得（単位数：活動期間に準ずる）

※単位認定は原則、実質1日8時間のボランティア活動を5日行う事で1単位とする。事前に専攻担当専任教員による面談を行い、ボランティア活動を行った後に「ボランティア活動報告書」の提出をもって認定。採点評価。

認定されるボランティア活動に、豊島区の国際アート・カルチャー活動を含む。

(4) 学外コンペに出品することによる単位修得（単位数：1単位）

※専攻担当専任教員にコンペの内容を事前に報告し、出品前に専攻担当専任教員の講評を受けて出品すること。ただし授業の一環として行われたコンペの出品は認められない。

例：「JAGDA 学生グランプリ」「アワガミ国際ミニプリント展」「回遊美術館」
「GU タペストリーコンペ」etc

特別支援授業を通じて認定

特別支援授業を受講することによる単位修得（単位数：各1単位）

受講料：1講座 15,000円 / 採点方法：提出作品、試験、レポート等によって採点。

※特別支援授業とは、単位取得を支援するために行われる授業。春期休暇、夏期休暇に実技授業・学科授業が開設。授業日の前の週までに事務局窓口で受講することを告げ、受講料を支払うことにより受講が認められる。

12. 参考作品

提出のあった課題作品、およびレポートについては原則として採点終了後、すみやかに返却を行う。場合により参考作品として一定期間預かり、授業の資料として授業時やガイダンスなどで使用する事がある。また、学校案内用の印刷物や広報（ホームページ、SNSなど）および学校外など授業以外での目的で作品を使用する事がある。

13. 各種書類

各種届け出、証明書の発行は本校事務局にて受け付ける。

ダウンロードが「可」の書類は学校ホームページよりダウンロードできる。(創形ホームページ → 学生生活 → スクールガイド →)

各種届け出

種 類	提出先	本人印	保証人印	ダウンロード
住所変更届	事務局	要	不 要	可
受講届	教務	不 要	不 要	可
欠席届	教務	要	要	可
感染症登校許可書	教務	不 要	不 要	可
忌引届申請書	教務	要	要	可
学籍異動申請書	教務	要	要	可
休学届	教務	要	要	可
復学願	教務	要	要	—
退学願	教務	要	要	—

証明書関係

種 類	交付日	申込先	手数料
在学証明書	2日後	事務局	500円
卒業証明書	2日後	事務局	500円
卒業証明書(英文)	7日後	事務局	1,000円
卒業見込証明書	2日後	事務局	500円
修了証明書	2日後	事務局	500円
修了証明書(英文)	7日後	事務局	1,000円
修了見込証明書	2日後	事務局	500円
成績証明書	7日後	事務局	500円
成績証明書(英文)	7日後	事務局	1,000円
再発行学生証	3日後	事務局	1,000円
推薦書・学校証明・編入学基礎資格証明など	7日後	事務局	500円
学生証明など	7日後	事務局	500円

勤労学生控除・資格変更書類など	7日後	事務局	500円
出席証明書	7日後	事務局	500円
学生旅客運賃割引証（学割証年間3枚まで）	1日後	事務局	無料

※上記証明書において学費未納の場合は発行不可。

*新型コロナウイルスの感染症拡大の影響に伴い授業日程（時期・期間・時間帯など）、授業内容、使用アトリエなどが変更になることがあります。詳細は出講表を確認してください。

ファインアート科版画専攻

シラバス

前期授業名：「版画概論」 担当講師：天野純治

授業期間：2021/04/15(木)– 2021/07/15(木)

学習目標：この授業では現代版画とは何かを考えることを目標とします。

現代版画や現代美術について多くの作品を鑑賞し様々な作品が持つ魅力やコンセプトを知って行きます。それら作品の変遷、現代美術史に理解を深めることから個々の制作の可能性を拓けることを目標とします。

授業内容：現代美術作品、現代版画作品の鑑賞。ポップアート以降、現在に至るまでの様々な作品の鑑賞を通してその作品の魅力とコンセプトの研究を行い現代版表現を考える。

自身の作品をより理解し、制作の可能性を拓けることを目的に、個々の作品のプレゼンテーションを行う。

前期学科授業名：「版画講座」 担当講師：今井圭介

授業期間：2021/04/17(土)– 2021/07/10(土)

学習目標：「版画」という言葉は明治の終わり頃につくられた造語ですが、それは版による画（え）を意味し、版の表現を強く意識したものでした。そうした版画についてルーツをたどりながら理解を深めることを目標にします。

授業内容：始めに木版画や銅版画など様々な版画について実際の作品や版をみたり画像を通じたりしながら紹介していきます。その後、浮世絵版画や日本の近・現代の版画を中心に試してみたいと思います。

選択学科(前期・後期)授業名：「フランス語 II」 担当講師：内田雅之

授業期間：2021/04/17(土) - 2022/01/22(土)

学習目標：フランス語1の修了者を対象として、一年次に習得した基礎力を基盤としながら会話表現・文法の両面での知識を広げていきます。また、少しずつ書かれたものを読む練習も行います。

授業内容：前期は、まず問題練習などを通じて、書くという別観点を少し意識しながら昨年の復習を行います。その後複合過去、単純未来へと文法面で次のステップへと移っていきます。後期は、フランス旅行の機会を想定して、オリジナルのフランス旅行のしおりを作成していく課題が課され、校内展示の機会を設けます。

授業名：「特別講座/就職セミナー」 担当講師：ゲスト講師

学習目標：特別講座：現代社会においてクリエイターの役割は益々重要性を増し、その領域は日々拡大しつつあります。講座では創作における考え方、発想をリアルタイムな講義を通して学んでいきます。

就職セミナー：就職活動から入社後の心構えやクリエイターとしての取り組みなどについてセミナー講座を開催。

授業内容：6/26(土)就職セミナー、9/10(土)就職セミナー、9/4(土)就職セミナー、9/24(金)海外留学準備担当講座、10/1(金)海外留学準備担当講座、10/9(土)同窓会特別講座、12/30(土)就職セミナー、12/11(土)創形展特別講座、2/12(土)就職セミナー（就活ポートフォリオ）*日程は出講表を確認してください。

前期学科授業名：「日本語(留学生対象)」 担当講師：蔣 燕萍

授業期間：2021/04/12(月)- 2021/6/28(月)

学習目標：美術・デザインに関する専門用語の勉強によって、日本語（特に口語能力）の向上を目標として挙げます。

授業内容：1. 1分間スピーチ（30分）

2. 美術関係記事についてのディスカッション（50分）

3. 映像教材を用いた美術用語導入（90分）

4. 前回導入した美術用語のチェック小テスト（10分）

5. 課外宿題

前期実技授業名：「シルクスクリーン2」 担当講師：東樋口徹

授業期間：2021/04/12(月)- 2021/6/26(月)

学習目標：シルクスクリーン版画制作を通して孔版画の専門的知識を習得し、自己表現に結びつくよう学習します。基本の直接製版方法を重ねて実習し環境にやさしい水性インクを使用し刷紙に刷ります。PCを使用した4色分解による4版4色の作品（18×25cm位）を1点、5版以上を使った作品（25×38cm位）を1点制作、色を刷り重ねる時の表現効果、用具資材の正しい使い方、手順を覚え多彩な効果を会得していきます。

授業内容：基本的な水性インクで紙に刷る4版4色を使った作品（A4／21cm×29.7cm）を一点（紙4枚程度）、5版以上を使った作品（A3／29.7cm×42cm）を一点（紙8枚程度）制作。

前期実技授業名：「現代美術演習A」 担当講師：山本 晶

授業期間：2021/04/13(火)– 2021/06/15(火)

学習目標：より一層多様化する美術表現に対する理解力を身につける。

授業内容：発想から表現へ、どのようなアプローチをすればいいのかを実践を通じて探ります。美術の様々な表現方法を分析しテーマに対してどのように実践をするか演習します。

前期実技授業名：「銅版画2」 担当講師：山本剛史

授業期間：2021/05/07(金)– 2021/05/29(金)

学習目標：銅版画技法に触れ、この面白さを体感し、今後の制作プロセスの幅を広げて頂ければと思います。銅版画には色々な技法がありますが、その中のいくつかを組み合わせ、自身の作品を制作してもらいます。版画表現は『写し取る』ことによって初めて成立する独特な手法です。どの工程においても丁寧に取り組むことが、作品に驚くほど影響します。この体験によって制作態度における誠意の大切さと『写し取った』自らの作品に対面する新鮮な驚きを学習して頂きたいです。

授業内容：エッチング、アクアチント、ドライポイント、リフトグラウンド、ソフトグラウンドエッチング、など銅版画の代表的な技法を紹介します。製版と刷り作業を実演した後、2つ以上の技法を選択し作品制作へと進んでもらいます。『提出用作品』は2枚を予定しています。支持体となる版画用紙はハーネミュレを使用。画面サイズ200×280mm。紙サイズ300×380mm。刷り上げた作品にはサインとエディションを入れて提出していただきます。最後は講評会にて、実際にやってみた感想とそれぞれの作品について皆で話し合い授業を終了とします。

前期実技授業名：「リトグラフ」 担当講師：中村真理

授業期間：2021/05/31(月)– 2021/06/25(金)

学習目標：講義、実習を通してリトグラフの製版方法や刷りの行程を学び理解を深め、リトグラフの特性を活かした制作を行う。

授業内容：リトグラフの特性を利用し、個々の表現したいテーマに基づき制作する。4版種の中でリトグラフの版作りは彫るのではなく「描く」という行為に最も近い版、ドローイングの様に手を動かして版づくりを行い自分自身で体験しながらリトグラフの仕組みを学んでいく。

前期実技授業名：「現代美術演習B」 担当講師：黒瀬陽平

授業期間：2021/06/22(火)– 2021/09/28(火)

学習目標：現代の視覚文化は映像を媒体としたコンテンツを抜きにして成立しません。サブカルチャーからハイカルチャーまで、映像というメディアがどのような役割を果たし、どのように展開したのか。本講義では主に戦後日本を中心としてアニメや映画、ゲームなどの映像コンテンツが表現してきたものを読み解いていきます。

授業内容：現代美術への理解を深め、作品制作のヒントを得るために、レクチャーと課題&講評会、課外授業を組み合わせたカリキュラムを行います。レクチャーでは、現代美術についての原理的な解説、日本現代美術史と戦後日本文化全般の解説を中心に行います。

前期実技授業名：「木版画」 担当講師：鈴木吐志哉

授業期間：2021/06/28(月)– 2021/07/17(土)

学習目標：水性多色木版画の作品の制作および基本技術と技法の展開。

授業内容：1年次の「専攻別ワークショップ（版画専攻）」で体験した水性木版画1版単色をこの授業ではさらに多色木版画に展開していくことで、木版画技法の充実と色彩について研究します。水性多色木版画の技法は浮世絵に見られるように日本独自の進化を遂げた技法でもあります。古来からの技法と現代の技法を駆使して自由な発想で制作してもらいます。・版木サイズ300×225mm（4～5版多色）

前期実技授業名：「技法と表現 A」

担当講師：鈴木吐志哉、東樋口徹、中村真理、山本剛史

授業期間：2021/09/01(水)– 2021/09/25(土)

学習目標：基本4版種から各自が選択した技法による制作

授業内容：前期に行った版画基本4版種（シルクスクリーン、銅版画、リトグラフ、木版画）から各自で技法を選択し、画材の購入の仕方、取り扱い等を学びながら自由に制作してもらいます。

・作品サイズに指定は特にないが、小作品で数多く刷りの経験を重ねる事を推奨する。

前期実技授業名：「製本実習」 担当講師：山口茉莉

授業期間：2021/09/02(木) - 2021/10/14(木)

学習目標：簡易なノート制作と、自分だけの上製本を制作します。

授業内容：本の造り、紙の持つ性質を学び、実際に製本する過程を通して「本」そのものの価値を考えます。

後期実技授業名：「石版画」 担当講師：板津 悟

授業期間：2021/09/27(月) - 2021/10/16(土)

学習目標：講義、実習を通して石版画の歴史や技術を学び、平版の仕組みを体感しながら石版石の特徴を活かした制作を行う。

授業内容：石版石を版材として使える様な状態にするまでの作業工程も含めて、素材との対話を大切にしながら個々の表現を考える。作品はモノトーンとし、一つ一つの行程を把握する。

後期授業名：「写真と美術」 担当講師：松蔭浩之

授業期間：2021/10/05(火)– 2021/11/16(火)

学習目標：写真の成り立ちから、構図や光の捉え方などを享受しつつ、「写真とはなにか？」を考察し、絵画制作に活用することを目標にする。

授業内容：歴代写真家の作品を紹介し、読み解きながらの座学と、デジタルカメラの扱い方を指導しつつ、ワークショップ形式で制作を重ねる。

後期実技授業名：「ドローイングA」 担当講師：鈴木吐志哉

授業期間：2021/10/18(月)– 2021/10/27(水)

学習目標：版画制作から離れ、ドローイング制作に集中する時間とする。版画の技法に制約されることなく、様々な支持体や素材を試す事で多角的に各自の表現を研究する。

授業内容：サイズ・支持体・素材・枚数・他。各自の判断で選択して制作。版表現から一旦離れ、自由な表現を繰り返す中から自分の作品について考える時間とする。

後期実技授業名：「木口木版画」 担当講師：栗田政裕

授業期間：2021/10/18(月)– 2021/10/27(水)

学習目標：木口木版画は、18世紀頃ヨーロッパで完成された木版画の技法である。柘植、椿等の堅牢な木材の木口の面を、ビュランという彫刻刀で彫り進んでいく木口木版画の技法は、白と黒との精緻な表現に適している。本実習では、版画の技法の中でもとりわけ単純で明快な、彫って摺るという行為に重点を置く。原初的な彫版の作業の中で制作者は自分自身の素直な表象と出会う実習である。

授業内容：テーマ＝自由制作

後期実技授業名：「銅版直刻」 担当講師：長島 充

授業期間：2021/11/11(木)– 2021/12/04(土)

学習目標：ドライポイントを始め、銅版直刻法による制作。様々な工具による線刻の表現や黒インクの刷りの表現方法の現れ方の違いを学習し、ダイレクトに版を彫っていくこの技法ならではの特徴を体験する。

授業内容：銅版画の中で、腐食を用いず直接的に版を彫っていくドライポイント技法を中心とした直刻法によりモノクローム銅版画を1点(30×36.5 cm)制作する。課題のテーマは「人間像」。銅の板を直接彫っていく緊張感を体験してもらう。

後期実技授業名：「ドローイングB」 担当講師：鈴木吐志哉

授業期間：2021/12/06(月)- 2021/12/17(金)

学習目標：「ドローイングA」同様に自由なドローイング制作に集中する時間とする。ただし、今回は各自の版表現へどのように展開できるかも同時に検証する。

授業内容：サイズ・支持体・素材・枚数・他。各自の判断で選択して制作。1000×700mm程度の大作が望ましい。

作品の展示額装及びパネル制作についてのデモンストレーション

後期実技授業名：「先端メディア(先端メディア アート&デザイン)」

担当講師：八幡純和

授業期間：2022/01/13(木)- 2022/02/03(木)

学習目標：VRという技術とそこに連動して様々な新しい魅力を展開しているサービスへの理解。また先端技術を応用した作品制作への展開。

授業内容：ゲームやファッションの世界だけでなく現代の様々なカルチャーやサービス、イベントなどと連動して発展している「VR（バーチャルリアリティ）」の世界。そのVRの仕組みと特性を理解しながらバーチャル空間ならではの作品制作を個々に試みます。

後期実技授業名：「技法と表現 B・インターンシップ」

担当講師：鈴木吐志哉、東樋口徹、中村真理、山本剛史

授業期間：2022/01/7(金)- 2022/02/26(土)

学習目標：2年生の期間に学習した技法を駆使し、各自自由に版種を選択しての制作。エスキース等も含め各自の方向性を探り、研究する時間とする。

授業内容：作品サイズ指定なし。各自の自由とする。・2作品以上を制作。

学校法人高澤学園
創形美術学校

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-31-2

TEL 03-3986-1981 FAX 03-3986-1982

URL <https://www.sokei.ac.jp/>

E-mail: sokei@sokei.ac.jp